

平成18年度

中学生海外派遣事業

～ 報告集 ～

と き 平成18年8月16日～23日

ところ 西オーストラリア州パース近郊、スワン市

稲美町国際交流協会

オーストラリア訪問メンバー(14名)

引率者

	氏名	性別	所属
団長	ふじしろ たかお 藤城 隆夫	男	稲美町教育政策部長
副団長	まるお のぶお 丸尾 信夫	男	稲美町国際交流協会副会長
生徒指導	よしむら ゆうこ 吉村 由子	女	稲美中学校教諭
事務局長	ながた まさし 永田 雅司	男	稲美町経営政策部企画課

派遣生徒

No	氏名	性別	中学校	年組
1	やまもと こうき 山本 幸貴	男	稲美	3-1
2	さわぎ たかゆき 澤瀬 貴之	男	稲美北	3-1
3	おおにし あい 大西 愛	女	稲美北	3-2
4	おかた さき 岡田 咲綺	女	稲美北	3-2
5	ふるかわ あゆみ 古川 明友美	女	稲美北	3-2
6	ふじもり ゆうさく 藤森 勇作	男	稲美北	3-2
7	もとおか あかね 本岡 明音	女	稲美北	3-2
8	いのうえ ともひろ 井上 智博	男	稲美北	3-3
9	やまもと ひろたか 山本 大貴	男	稲美北	3-3
10	はた ななこ 富 奈々子	女	稲美北	3-4

平成18年度 中学生海外派遣事業プログラム

日	月日 (曜)	都市	発着	現地時刻	交通機関	日程(泊)	食事
1	8月16日 (水)	役場南側玄関 関西国際空港 関西国際空港 チャンギ空港 チャンギ空港 パース国際空港 パース市内	発着 発着 発着 発着 発着	7:00 9:00 11:00 17:35 18:50 23:50	町のバス SQ985 SQ215 専用車	関空へ 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま) 空路、パースへ 入国手続後、ホテルへ (ホテル泊)	機内食 機内食
2	8月17日 (木)	パース市内 パース市内 パース市内 パース市内 バンバリー市	発着 発着 発着 発着	9:00 9:15 9:15 10:00 12:30	専用車 専用車	兵庫文化交流センターへ 兵庫文化交流センター 小川所長表敬訪問 ファーガソンファームへ ファームステイ (ファームステイ)	朝 ホテル 昼 ファーム 夜 ファーム
3	8月18日 (金)	バンバリー市 スワン市 スワン市 スワン市	発着 発着 発着	12:30 16:00 16:30	専用車	スワン市役所へ スワン市長表敬訪問 ホストファミリーと対面	朝 ファーム 昼 ファーム 夜 ホスト
4	8月19日 (土)	スワン市				ホストファミリーと過ごす	朝 昼 夜 ホスト
5	8月20日 (日)	スワン市				ホストファミリーと過ごす	朝 昼 夜 ホスト
6	8月21日 (月)	スワン市		8:30 15:00 18:00	ホストファミリー ホストファミリー ホストファミリー	Governor Stirling Senior High School体験入学 ホストファミリーと帰宅 スワン市主催歓迎レセプション・夕食会 (ホストファミリー・ホスト校関係者・市議会議員など)	朝 ホスト 昼 学校 夜 スワン市
7	8月22日 (火)	スワン市 スワン市 パース市 パース市 パース市 パース国際空港 パース国際空港 チャンギ空港	発着 発着 発着 発着 発着	8:30 9:00 9:30 9:30 12:30 13:00 15:55 21:15	ホストファミリー 専用車 専用車 SQ226	学校集合 パース市内へ向け出発 パース市内見学(買い物など) パース国際空港へ出発 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま)	朝 ホスト 昼 各自 機内食
8	8月23日 (水)	チャンギ空港 関西国際空港 関西国際空港 稲美町	発着 発着 発着	1:10 8:35 9:20 11:45 11:50	SQ986 町のバス	空路、関空へ 陸路、役場へ 解団式	機内食

中学生海外派遣事業の経過

- 4月 6日 両中学校を通じて生徒（3年生）に申込書を配布
- 4月24日 中学校申し込み締め切り日（申込者・・・13名）
（稲美中・・・男1、女1 稲美北中・・・男5、女6 計13名）
- 5月 7日 選考会実施（作文試験、面接試験）
- 5月31日 中学生に選考結果の可否通知文書を発送
派遣生10名の決定（稲中・・・男1、女0 北中・・・男4、女5）
- 6月17日 事前研修1
・事務局、日本旅行から旅の説明
- 7月 3日 事前研修2
・吉村先生・アンナ先生による英語研修
・出し物の決定（御神楽、歌）
- 7月10日 事前研修3
・英語研修
・出し物の練習（御神楽）
- 7月24日 事前研修4
・事前研修資料を読む
・出し物の練習（御神楽、歌「カントリーロード」）
- 7月31日 事前研修5
・英語研修
・出し物の練習（御神楽、歌「カントリーロード」）
- 8月 7日 事前研修6
・事務連絡（報告書の書き方等）
・出し物の練習（御神楽、歌「カントリーロード」）
- 8月14日 結団式
事前研修7
・御神楽、歌の練習
- 8月16日～23日 オーストラリアに派遣
- 8月23日 解団式
- 9月11日 反省会

中学生海外派遣事業の記録

事前研修 畠 奈々子



事前研修ではオーストラリアへ行くためにたくさんの準備をしました。

最初は面接で合格した10人と会って、このメンバーで行くのかととてもドキドキしました。いろいろ協力や応接して下さる人とも会って挨拶をし、1回目が終わりました。

研修は月曜日の19:30~21:30まで計6回やりました。稲中が1人、北中が9人だったけれど、仲良くなり笑顔の絶えない友だちになりました。英語の紹介やオーストラリアの情報や御神楽、カンントリーロードなどをやりました。御神楽では扇子を落としたり、ぶつかったり、間違ったりなど失敗も多くて、最初から最後まで踊るのにしんどかったです。それでも10人で音楽が鳴り始めると、疲れた顔を見せることなくしっかりと踊ることができました。服装も考えて、より美しい踊りに変わりました。

8月14日(月)結団式 井上 智博

あと2日でオーストラリアへ行くという不安もあり、また、楽しみの気持ちでいっぱいでした。今までたくさんの事前研修を

行ってきましたがこれで最後です。

結団式のためにコミセンホールに行くと、引率して下さる方々をはじめ、いろいろな大人の方たちがおられ、みなさんからお言葉をもらいました。また、引率して下さる方々、僕たちが一言ずつ自分の決意を発表しました。みんな違う決意を持って頑張ろうと思っています。僕たちがオーストラリアに行くため、協力・企画して下さった方々には感謝の気持ちを忘れず、いろいろなことを学べます。日本に帰ってきたら一歩自分が成長した姿を見せられるように努力します。



8月16日(水) 澤瀬 貴之

いよいよ今日、オーストラリアに向けて出発です。行きのバスの中ではみんなで喋ったり、未知の国に空想をふくらませたりして気持ちも高まっていきました。空港ではやや興奮ぎみで、楽しみでたまりませんでした。いざ飛行機に乗ると初めて見るも



のばかりだったので飛び立つ時まで機内を見回してばかりでした。雲の上を飛んでいる時はちょっと信じられませんでした。

シンガポールには乗り継ぎのためによりました。シンガポールではお土産を見てまわったり、ピザを食べたりして少しだけだったけど楽しい時間を過ごしました。シンガポールを飛び立って現地時間の深夜 1 時にパース国際空港に着きました。そして、今日の最難関の税関を抜けてオーストラリアの地にしっかりと足をつけました。ホテルに入り、みんなと少し喋って、これからの旅に期待をふくらませて就寝しました。

8月17日(木) 山本 大貴



この日は午前中に兵庫文化交流センターを訪問し、そこからファーガソンファームへ向かいました。ファーガソンファームに近づくにつれ、周りの景色も都会から牧場のような環境に変わってきました。

ファーガソンファームに着くと、まずトラクターに乗ってファーム内を回りました。すごく広い土地でした。日本では見る事の出来ないような動物もいました。その後、稲美町に向かって立てる看板を作りました。ほかにも、羊の毛刈りも見たりしました。

夜は、キャンプファイヤーをしました。コカバラの歌を教えてもらいました。空を

見上げると、日本とは比べ物にならないくらい星が綺麗でした。天の川がくっきりと見えたり、流れ星もたくさん見ることが出来ました。

いろいろな動物にふれたりして、日本では出来ないような体験ばかりで、とても良い経験になり、充実した一日となりました。

8月18日(金) 古川 明友美



ファームの朝は太陽が照って、冬とは思えないようなポカポカ陽気でした。朝ごはんを食べるとすぐにポニーに乗ったり、牛の乳搾りをしたり、昨日エサを仕掛けたエビをとったりしました。そのエビは、ローザさんが料理してくださってお昼にみんなで美味しくいただきました。また、牛が出てはいけな所に出たので、ゲージの中へ追い込むということもしました。そして、ファーム最後のご飯を食べて私たちは、スワン市へ向かいました。

スワン市へ向かうバスの中、私は「不安・期待」でとてもドキドキしていました。ホストファミリーの人と対面すると、私たちはとても緊張してみんな顔がひきつっていました。ホームステイ先に着くと家の広さに驚きました。今日からドキドキ・ワクワクのホームステイの始まりです！！

8月19日(土)



今日から10人がそれぞれの家でフリータイムです。私は、昨日までみんな一緒だったのに1人かぁ・・・と思うと少し寂しくなりました。だけど、1人だからこそ学べることもあるはずだと思い頑張ろうと思いました。

今日の朝は、お母さんに連れられ、智くんのホームステイ先へ行きました。そこには澤瀬君もいて、みんなでゲームをしたり話したりしました。その後、私とジャスミンは帰りました。それは結婚式があったからです。私は結婚式があるなんて知らなかったのでびっくりしました。結婚式はガーデンパーティー風に行われました。花嫁さんはとてもかわいかったです。私もみんなと一緒に祝福の拍手を送りました。結婚式には病気で入院しているジャスミンのお姉さんも来ていて、私はそこで初めてお姉さんに会いました。私の渡したお土産をとっても喜んでくれたので良かったです。

初めて、一日中ホストファミリーと過ごした今日は緊張したけど、楽しかったです。

8月20日(日) 本岡 明音

今日は7時起床。笑顔で『Good morning』と言うと、『Oh Good morning AKANE』と、朝からテンションが高く

てビックリしました。タイソン(犬)も、とてもなついてくれて、朝から顔を思いっきりなめられました。

昼前にイローナ(母)とジェルーサと、彼氏のクリーダンの3人で行ったビーチはvery COLD and very WINDY!!それでも、たくさんの方がサーフィンをしていて、驚きでした。

家に帰ったあと、末っ子のジョンに水鉄砲と紙風船をPRESENTSすると、とっても気に入ってくれたみたいで、ずっと遊んでくれました。かわいい!!!!

トムソン一家は、みんなすごく優しく、常に気遣ってくれたし、とてもたくさんのお話をしてくれました。本当に心から大好きになりました。



8月21日(月) 大西 愛

今日も、いろんな所へ行きました。

まず、ガバナースターリング高校の学校見学をしました。Naomiに今日の授業を聞いてみると、ダンス、ドラマ、フランス語などがあると教えてくれました。私の知らない科目ばかりでびっくりしました。私たちは、写真などの授業を見学しました。どの授業もとても楽しそうで、やってみたいと思うものでした。その後、私たちは御神



楽を踊り、カントリーロードを歌いました。

次は、動物園に行きました。初めて見る動物が多かったです。コアラをさわったり、カンガルーに餌をあげたりしました。とてもかわいかったです。中には、白いカンガルーもいてびっくりしました。動物を間近に見ることができ、とても嬉しかったです。

家に戻ってから、スワン市のレセプションに行きました。そこでは、夕食を食べながらホストファミリーや他の家族と話をし、楽しかったです。それから、もう一度、御神楽や歌を見てもらいました。いろんなところに行って一日がすぐに過ぎてしまいました。

8月22日(火) 藤森 勇作



今日でホストファミリーの方々ともお別れです。朝、学校へ家族と一緒にいき、最後の別れを告げてきました。悲しかったけど、ぐっと涙をこらえて強く握手をしてから、バスの中へ行きました。

家族のみなさんとは別れて、僕たちはパースへ向けて学校を出発しました。パース市内はとてもにぎやかで、道がとてもや

こしかったです。僕たちはマクドナルドで昼食をとることにしました。僕はチキンナゲットを頼みました。そして、箱の中を開けてみると、ナゲットが6つも入っていました。日本では5つくらいだったけど、オーストラリアでは6つらしいです。かなり嬉しかったです。

その後は、専用車に乗っていよいよ帰りのパース国際空港へ行きます。一度来る時に通った道なので、なんだか懐かしかったです。

チャンギ空港で飛行機を乗り換えて、今日は終わりです。

8月23日(水) 山本 幸貴

ああ、もう1週間終わったのかぁ・・・という寂しい気持ちと、やりとげたという嬉しい気持ちが混ざって、空港で久しぶりに見る日本人を見て本当に帰ってきたんだと、手続きをしながら実感していました。

やっと日本食が食べられる！と思いながらバスに乗って、役場について解団式が始まって、今回の海外派遣事業に申込んで本当に良かったなぁと思っていると、あっという間に解団式も終わっていました。

今回の海外派遣事業では、英語が片言でも通じたりして英語がおもしろいと思えたり、オーストラリアに新しい家族が増えたり良いことばかりでした。

今回お世話して頂いた方々には感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。





レセプションでホストファミリーと

僕は今回、オーストラリア海外派遣事業に参加できて本当に良かったです。何故かと言うと、最初は、英語が出来ないことが不安でした。申込んだ理由も飛行機に乗りたいという、単純なことだったので派遣生に決まった時はなおさら不安でした。

しかし、6回の事前研修に参加していく毎に、オーストラリアの食について知りたい、自分の英語を向こうで試してみたいという気持ちになりました。出発前に行われた結団式では、オーストラリアの食を知るというのは、目標が変わっていました。

そして、出発当日、僕は楽しみ100%だったはずでしたが、いま思ってみると不安で何故か朝はいつもより早く目が覚めてしまいました。でも、初めての飛行機に乗って向こうに行ってみると、そんな不安も消し飛びました。お世話になったホストファミリーの人たちや、全く知らない日本人の僕を受け入れてくれたオーストラリアの人々のおかげで、心配だった英語も楽しいと思えるくらい好きになりました。

また、日本との違いを大きく感じたのは、向こうの人は自分の国をもの凄く大切にしていることです。オーストラリアの兵庫文化交流センターの小川所長さんの話では、まず自

分の国の文化をしっかりと身につけて、次に外国の文化を知っていくことが大切だという言葉がとても心に残っています。

また、国際交流の面を、とても身近な場所で知ることができました。それは、僕らが体験入学したガバナースターリン高校の生徒で、前にソフトバンクホークスにいた城島選手の大ファンがいたことです。以前、日本で試合を見たらしく、学校にはホークスの帽子と城島選手のTシャツをいつも着ていくらしいです。また、ホストファミリーの友だちのエニーという人が、パナソニックが大好きで、カメラなどの話で盛り上がるなど、ささいなことでも日本は世界とつながっているということを感じました。

そして、なにより英語が楽しく感じたのはホストファミリーとの生活でした。僕がお世話になった、バクスター家は、犬が2匹、猫3匹、ガチョウ4羽、鶏10羽というスケールの大きい家でした。ここで初めて感じたのは人がフレンドリーというのがありますが、犬も猫もフレンドリーで、すぐなついてくれて嬉しかったです。

ホストファミリーの家での食事は1日目にとっても大きなステーキができて、ここでもスケールの大きさにびっくりさせられました。そして、2日目の晩ご飯は僕がお好み焼きを作って、それまであまり喋らなかったジョーダンという人とも食を通じて仲良くなりました。3日目は、水族館にお母さんのサリーと、おばさんのシャロンと、ホストファミリーに応募してくれたビクトリアと4人で行き、後でシャロンと映画館でパイレーツ・オブ・カリビアンを見ました。4日目はスワン市主催の歓迎レセプションで、出し物の御神楽や歌を歌ったり、スワン市の市議員の人などと盛り上がりながら、もの凄く美味しい料理を食べました。そして、お別れの日ビクトリアとサリーに見送ってもらいました。ホストファミリーではたくさんの思い出をもらえたとし、新しい家族が増えた最高の4日間でした。

今回のオーストラリアでの経験は、僕の人生の中で二度とない最高の思い出となりました。今回お世話になったホストファミリーの家族には、絶対にもう一度会いに行きたいです。

こんな、最高の思い出、英語の楽しさを味わえるオーストラリア海外派遣事業に、もっともっといろんな人に申しんでもらって行ってもらいたいです。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させて」

山本ひとみ

この度、中学生海外派遣事業に参加させて頂きました。まず始めに、お世話いただいた多くの皆様に感謝の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

まだ小学生だったと思いますが、中学生派遣事業が行われると聞いたとき、「幸貴も中学3年生になったら、オーストラリアに行けたらいいのにね」という会話をしたことが本当に実現して、親の私の方が驚きでした。

結果的に、稲美中学校の代表という形になり、本人よりも親の方が不安になったのも事実でした。でも、稲美北中学校の皆さんとも古い友人のように仲良くなり、また、国際交流協会の皆さんを始め、まわりの方々にも可愛がっていただき、出発までの毎週の研修会では多くのことを学んできていました。出発までの準備期間すべてがこの派遣事業なんだと感じました。

いざオーストラリアへ、幸貴の目的は『食』がテーマです。オーストラリアの食文化にふれ、日本の食を伝えることでしたので、何とかして、ホストファミリーのお宅でお好み焼きをしないと、準備をしました。オーストラリアは食料など国内に持ち込むことが厳しいと聞いていましたが、無事に税関を通過し、片言英語も何とか通じたようで、豚肉・キャベツも買ってください、お好みを食べて頂くことができ、おいしいと言ってもらえたことがとても嬉しかったようです。ホストファミリーも普通の生活の場に迎えてくれ、家族の一人として生活させてくれたことに感謝します。我が家も子どもたちが幼い頃、ホストファミリーをしてくれとせがんだことがありましたが、一歩踏み出す勇気がなかったので実現できませんでした。

帰宅時には、みんな少し泣いていた...、写真を1枚渡してきた...、可愛がっていただいたんだと、親としてとっても嬉しく思いました。

ママからは、とっても素敵な手紙を私たち夫婦にいただきました。『・・・大事な息子を、オーストラリアに留学に出してくれて、感謝します。素晴らしい子に育ててくれありがとう・・・』と、幸貴の留学が、私たち家族にまで『縁』が広がったことに感動しました。幸貴が大人になっても、オーストラリアの家族と大切につながっていけることを願っています。そして、私たちも将来是非オーストラリアへ旅立とうと思います。



ホストファミリーとピース

オーストラリアに行ってみたいと思う軽い気持ちから応募した派遣事業でしたが、なんとか8日間が終わり、少し変わった自分がいるような気がします。初めは、言葉が通じるのかなと思ったりして不安もあったけどその反面で外国の町並みはどんなものなのかなと楽しみでもありました。

バンバリー市でのファームステイでは広大な自然を体で感じる事が出来ました。日本では見られない桁違いの広さに思わず「おー！」と、言ってしまうほどでした。野生のカンガルーやポニーを目の前で見たりさわったりすることが出来て、とても嬉しかったです。それに、羊の毛刈りを始めて見る事が出来ました。そして、みんなで作った稲美町の方角を指す木の目印は、出来た時の嬉しさや達成感が言葉では表せないほどでした。ファームでの食事は特に美味しかったです。食べ物も美味しかったけど、それをみんなと一緒に

食べられたのでとても食事が楽しかったです。

ホストファミリーと過ごした日々は新しい発見の連続でした。食事の時でもコーラ、普段の飲み物もコーラ、絶えず炭酸飲料を飲んでいました。炭酸が入っていない飲み物は着色がしてあって、赤・青・緑など、これは飲めるのか？と思うほどすごく濃い色でした。その他の飲み物も炭酸飲料がほとんどで、その炭酸もきつかったです。外人の人の骨は大丈夫なのかと真剣に心配になりました。それに、食べる量がとても多かったです。僕が頑張っただけの量を、僕より二歳年下の女の子がなにくわぬ顔で食べていました。正直、驚きました。そんなビックリなこともたくさんあったけど、ホストファミリーの人達はとっても優しくよく気を使ってくれました。映画を見ている時に、絶えずジュースはいらぬか、何か食べたいかと聞いてくれました。そして何より僕が一番心配していた会話の部分ではとても助けてもらいました。僕はなかなか自分から話しかけるというのができませんでした。ホストファミリーの人はお母さんを中心によく話しかけてくれて本当に嬉しかったし、楽しかったです。僕が英文を聞き取れなくて何度も聞き返したり困っていたりしても、あきらめず僕がわかるまで一生懸命話してくれました。日本やオーストラリアについて話しているときはとっても盛り上がりました。地図まで出してくれて、僕のしどろもどろの説明も真剣に聞いてくれました。そのほかにも、川や草原につれて行って、とても充実して楽しいホームステイになりました。

オーストラリアの景色は日本とは全く違ったものでした。町より少し高い位置にあるキングスパークで見た夜景はとっても綺麗でした。東京や大阪のような夜景とはまた違った自然の夜景を見ることが出来ました。他にも兵庫文化交流センターで見たスワン川は幅が恐ろしく広く、日本では考えられないほどでした。流れの速さはそうでもなかったけど広く大きかったのでとても驚きました。たった8日間でしたが、日本とは違う文化をもつ国で貴重な体験が出来たことは、これからのためにもとても良かったと思います。

稲美町国際交流協会の人やホストファミリー、スワン市の人たちを始めとする今回の派遣事業に携わってくれた人たち全員に心から感謝しています。とても良い体験と楽しかった8日間を本当にありがとうございました。

保護者の目から見た派遣事業

「不安？心配？でも成長実感！オーストラリア派遣事業」

澤 瀬 美 紀 子

「オーストラリア行ってみようかな～」そんな軽い一言から始まった今回の派遣事業。子どもにとっても親の私にとっても貴重な経験になったようです。

海外旅行が身近になったとはいえ、やはりオーストラリアまで行かせるのはちょっと心配でした。まずは言葉の心配です。ホームステイでは全く日本語は通じません。体調が悪くなった時は？困った時はどうするの？コミュニケーションはとれるのかしら？たくさんの方が同行してくださるものの心配はつきません。また、海外では自分で責任を持たなければいけないこともたくさんあります。パスポートやお金の管理もその一つです。日本という安心と安全が保障された中で育ってきた子どもに、海外の治安などわかっているはずもなく、本当に口が酸っぱくなるほど注意をしました。そんな心配をよそに出発の日、笑顔で手を振る子どもを見ながらも、心の中で「大丈夫かいなあ～」と何回も思っていたくらいです。

オーストラリア滞在中は、役場からの連絡が唯一の向こうの様子を知る手段でしたが、突然子どもから携帯にメールが送られてきました。ローマ字打ちで“gennkinisiteru”たったそれだけでしたがとても安心しました。それと同時に、海外に行ってもこうやってメールを送ってくる子どもに、「やるやん！」と少し頼もしくも感じました。

中学3年の夏というとても大切な時間に、事前の研修から学校行事、塾や夏休みの宿題をこなしながらの派遣事業への参加は、子どもにとって少々きついスケジュールだったようですが、この時だからこそ吸収できることもたくさんあったのではないかと思います。

自分で考え、行動し、責任を持つということの大切さ、そして仲間と協力し1つの事を成し遂げた充実感、海外という全く違った環境の中で、違った考えや習慣を受け入れていくということ、中学3年の柔らかい心のスポンジにたっぷり染み込んでいってくれたのではないかと思います。

また親の私にとっては、子どもの成長を感じることが出来たとともに、これから少しずつ自立していこうとする子どもの背中を見守り応援していかなければと改めて感じる事が出来ました。

たった8日間でしたが、この貴重な経験を忘れず残り少ない中学生活、そしてこれから先にある人生を豊かなものにしていけるようにと願っています。最後にこの派遣事業でお世話になりましたたくさんの方々へ深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



ありがとう オーストラリア

大 西 ^{あい}愛



ホストファミリーと一緒に

外国に行けるというわくわくした気持ちと、英語が伝わるかという不安な気持ちの中、オーストラリアへと出発しました。でも、実際にオーストラリアに行ってみると、とても楽しいことばかりでした。

初めはファームステイです。ファームはとても広く、どこを見ても緑という大自然であり、その中に動物たちが自由に暮らしていることに驚きました。牛の乳搾りやポニーに乗るなど、いろいろな動物とふれあうことができ、とてもいい体験ができました。夜の星はとても綺麗で、天の川や流れ星など数え切れないほど多くの星が見え、とても感動しました。

ファームステイが終わり、いよいよホームステイの日が来ました。これからは英語を使う生活なんだと思うと大丈夫かなと思いました。そしてホストファミリーとの対面。ゆっくりとジェスチャーをつけて話してくれたので、話の内容がよくわかり、とても優しい人

で安心しました。外国人の話す英語がわかったということが嬉しかったです。

その後、ホストファミリーの Naomi や友だちと共にボーリング場に行きました。家族や学校のこと、好きな色や動物について話をしているうちに緊張もなくなってきました。

次の日、パースへショッピングに出かけました。パースの街は想像していたよりも都会で驚きました。デパートに FATHER'S DAY と書いてあったので「父の日なの？」と聞いてみると、オーストラリアでは父の日が9月にあることを知りました。母の日は、日本と同じ5月にあるそうです。自分が話した英語が相手に伝わることによって、話してみることがとても大切であると気付き、話す勇気が出てきました。私が相手の話していることがわからないと、何度も繰り返しわかりやすく話してくれ、逆に、私が一度言って伝わらなくても真剣に耳を傾けてくれ、お互いに伝えようとする気持ちが一番大事だとわかりました。

夕方には Naomi の友だちの誕生日会がレストランでありました。20人以上の男女が集まっていました。この誕生日会に参加し、たくさんのオーストラリアの人と出会うことができました。

ホストファミリーと過ごす最後の日は、家族と一緒に一日を過ごし、海やキングスパークなどの自然のある所に行きました。海はとても青く綺麗でした。冬なのにサーフィンをしている人が何人もいることにびっくりしました。キングスパークでは日本にいない鳥や植物を見ることが出来ました。ホストファミリーと過ごしたこの日は、私にとって一生の思い出の一日となりました。

このホームステイで、国の文化や言葉が違ってても伝えようとする気持ちがあれば仲良くなれることがわかりました。少しずつでも英語で自分から話すことが自分自身の大きな自信となりました。ホストファミリーはいつも私に優しくそして暖かく接してくれ、ホストファミリーに出会えて本当に良かったと思います。これからはもっと英語を学んで、いろいろな思いを伝えられるようになり、またいつかホストファミリーに会いたいです。

日本を離れ今まで以上に日本の良さに気付きました。国際交流には、外国を知ろうとすることと日本の良さを外国に紹介することが必要だと学びました。

私は、この8日間で勇気を持つことと優しさが大切さだということを改めて感じました。

今回の海外派遣でお世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

保護者の目から見た派遣事業

「派遣事業に参加させる思い」

大 西 ま ゆ み

「中学生海外派遣事業」というのがあると知ったのは、子どもが中学1年生の時に広報を見て知りました。小さいころから好奇心の強い子どもでしたので、「私も中学3年生になったら行ってみたい」と、当時話していたのを思い出します。

中学生になってからは、ひたすら部活動と勉強の毎日でした。自分の持っているエネルギーの全てをそれに費やしているかのようにも感じられました。

中学3年生といえば、部活動も夏には引退し、次は誰もが受験に向けてのスタートを切る時期です。子どもを見ていて、次のステップ（前進）には何かが必要だと感じていました。

そんな折、海外派遣に参加が決まった時には、本当に飛び上がるように喜んでいました。

中学生といえば、子どもから大人への成長の時期です。この3年間に会う人や経験は、大きな影響を与えたいと思います。オーストラリアでのホストファミリーの優しさや温かさは、心に残るものとなり、大自然や夜空にキラキラと輝く無数の星は心を広くしてくれたようです。

子どもに、このような機会を与えてくださった稲美町には、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



大切な思い出

岡田 咲 綺



ジャスミンとおそろいのネックレスで

期待と不安でいっぱいの中、いよいよ出発の日がやってきました。朝早く役場に集合し、みんなと会った時、本当に行くんだなぁと改めてそう思いました。お母さんやお父さん、そして見送ってくれた人たちとお別れをして、いよいよオーストラリアへ旅立って行きました。飛行機の中はすごく疲れました。オーストラリアの空港に着いた時はすごく寒かったけど元気になりました。いよいよオーストラリアでの生活の始まりです。

ファームステイは日本ではすることの出来ない貴重な体験がいっぱいでした。まず、ファームへ向かう途中の道の景色。すごく広くてゆったりした雰囲気にも包まれた中、動物がいっぱい見えました。ファームに着いた時はもの凄い景色に感動しました。どこまで続くんだろうと思うくらい広く、緑一色。日本だったら見れない景色だなぁと思いました。ファーム1日目は、動物と遊んだり、キャンプファイヤーをしたりしました。キャンプファイヤーで、すごく綺麗な星を見ました。星空をずっと眺めていると流れ星が見えました。

私は今まで見たことがなく凄い感動しました。あの星空はプラネタリウムみたいでした。

その日、キャンプファイヤーの後、それぞれの部屋に帰りました。女の子5人は同じ部屋で男の子たちとは少し離れた場所にありましたが、男の子2人がおどかしに来たんです。窓やドアをドンドンとたたくので私たちは男の子だと気付かないまま5人で怖がっていました。あの時はすごく怖かったけど、それもひとつの思い出になりました。

ファーム2日目。いよいよファームとお別れです。その日はポニーに乗ったりしました。ジョンさんたちと別れるのはとても寂しかったです。ファームでの貴重な体験は私にとってすごく良い経験として思い出になりました。

そしてファームを離れ、ホストファミリーの待つスワン市へ向かいました。私の家の人はどんな人だろう。英語で話せるだろうか。もし、伝わらなかったらどうしよう……。スワン市へ近づくにつれて不安だらけになっていきました。

そして……。ホストファミリーと対面の時がやってきました。最初に会ったのはジャスミンでした。ちょっと茶色っぽい髪の毛に小さな顔。そして大きな目が印象的なかわいい女の子でした。「サキ」という短い名前は覚えやすいのか、すぐに覚えてくれました。お母さんも少ししてから来てくれました。目がそっくりでした。

そして、みんなと別れてホームステイの始まり。最初の夜は、話すだけで緊張でした。相手から聞かれてもよくわからず、何回も聞くうちに簡単な言葉にしてくれたりして少しずつですが、英語に慣れていきました。

次の日は結婚式に行きました。日本以外での結婚式になんて行けると思っていなかった私は、すごく嬉しかったです。

その次の日には、ジャスミンの友達の子という女の子と駅で待ち合わせして電車で買い物に行きました。オーストラリアの電車は日本よりも遅く時間がかかりました。買い物はすごく楽しかったです。キリとも仲良くなれて良かったです。

次の日は学校に体験入学しました。日本と違い、化粧やピアスが普通で驚きました。動物園へも行きコアラやカンガルーなどにふれられたので嬉しかったです。

その日の夜のレセプションでは、日本で練習してきた「みかぐら」と「カントリーロード」を披露しました。「上手だったね」とお母さんに言われ、すごく嬉しくて「ありがとう」と笑顔で答えました。明日はもうお別れ。それを考えるとすごく悲しかったです。

ついにお別れの日。お母さんに車で送ってもらいました。お母さんとお別れ。お母さんに「また来てね」と言われ抱きしめてもらいました。それから少しあとに、いよいよジャスミンとお別れでした。いつも元気なジャスミンが少し元気がありませんでした。最後は、「ありがとう」とお互いに抱き合いました。泣きそうになりました。ジャスミンとおそろいのネックレスをプレゼントしたらすぐにつけてくれました。本当にお別れ。すごく寂しかったけど、精一杯手をふって笑顔で別れました。

私にとって、このオーストラリアでの8日間は本当にあっという間でした。新しいことだらけの生活。1人という不安。英語が伝わらなかった時も頑張って伝える。もう、全て

に一生懸命でした。日本を離れ、外国で生活してみて、初めて人と人とのふれあいや人の優しさ、あたたかさがわかった気がします。この貴重な8日間の思い出を、心の中へ大切にしまっておこうと思いました。こんな思い出を作る機会を与えてもらったことに感謝したいと思いました。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させて」

岡田 直美^{なおみ}

オーストラリアへの中学生海外派遣事業というのを知ったのは2年前。娘が中学1年生の時でした。海外でのホームステイという内容に、「私も行ってみたいなあ・・・」という言葉聞いて少し驚いたのを覚えています。そして今年、娘は中学3年生となり、派遣事業に参加させていただくことになりました。女の子で、しかも海外で1人でのホームステイ。

どうしても家にいると自分のことは自分で！と口うるさくは言うものの、つい親が手助けしてしまう、という毎日なので、言葉も通じない海外で1人で生活してみて娘が何か感じて学んで帰ってきてくれることを期待して・・・。

本人は、初めての海外旅行、ホームステイと楽しみで仕方なかったようですが、親としては言葉は通じているのだろうか？食事はちゃんと取れているのだろうか？体調はどうだろうか？と毎日心配していました。事務局の方から、元気でやっているようですとの連絡を受けてとても安心しました。

8日間の派遣事業を終えて、元気に帰ってきた娘は、とても楽しかったようで、疲れも忘れてホストファミリーのこと、ファームでのことなど、いろんなことを話してくれました。中学3年生の夏、娘にとって忘れられないとても良い経験が出来たことと思います。

この派遣事業を通して、お世話になった事務局の方々、そして先生方。本当にありがとうございました。



ひと皮むけた自分に！！

古川 明^あ友^ゆ美^み



大好きなチョコレート工場でテヘラと

トランクに荷物を詰め込み、何となくオーストラリアに行く実感が沸いた翌日、私は日本を旅立ちました。眠れないだろうと思っていた飛行機もスヤスヤと眠れてしまいました。ただひとつ、機内食は私にとってかなり苦痛でした。寝るか、ゲームをするかを繰り返しているうちにオーストラリアに到着！！もう真夜中。暗闇の中で、自分の息が白いことに感激していました（笑）。“長いようで短かった 1 日が終わりました。次の日、小川所長にお会いし今回のオーストラリア派遣の重要さをあらためて感じました。

ファームには私の大好きな動物がたくさんいて、なかでも私はアフリカゴットがお気に入りでした。夜のファームはなんといっても星がキレイ！！流れ星にも会えたとし、ずっとここにいたいと思うほどでした。また、ローザさんの料理は絶品！！私が『This is the best dish in Australia』と言うとローザさんはとても喜んでくれました。恥ずかしかったけれど言った後、達成感が沸きました。

スワン市に着いて市長さんが待っている部屋に入ると大勢のホストファミリーの人がいました。私は昨日までみんなといたせいか 1 人が寂しくて本当に今日から 4 日間過ごしていけるか不安になりました。

次の日からいろいろな所へ連れて行ってもらい、たくさんの人に会いました。始めは『Hi』と言ってくれているのに恥ずかしくて返せませんでした。この【恥ずかしい】という気持ちをなくしたかったので、言ってくれた人には必ず笑顔で『Hi』と返すように心がけました。3 日目、わたしの目覚まし時計が壊れてしまったので、起こしてほしいと頼まなければいけません。とにかく電子辞書を片手に必死で伝えると、笑顔で OK してくれました。頑張ったかいがあったと思いました。

私にとって、この旅で 1 番嬉しかった事は present です。人形に、タオルに、チョコレートに、置物と、数多くの present をもらいました。私が『 am sorry. Thank you very much.』言うと、日本語で笑いながら『どういたしまして』と言ってくれました。4 日目、お母さんに連れられて図書館みたいなところへ行くと、そこでお母さんは日本語の勉強をしていました。お母さんは、『ホストファミリーをして 3 人目の時に相手の子が日本語で何か言っているのだけど、それが全然分からなかった事があって、それから日本語の勉強をしようと思ったのよ』と話してくれました。わたしはホストファミリーをしてくれるだけでも十分なのに、私たちのために日本語の勉強までしてくれていると知って、とても嬉しかったです。

今回、私が 1 番頑張ったことは、会話の途中でもわからない単語が出てくるとすぐに調べたことです。大変でしたが、日本ではできないことなので私にとって価値ある大変さであったと思います。実際、文法ももちろん大切ですが、単語を知っていなければ会話ができないので、私がしたことは大切なことだと思いました。

この 8 日間、私は常に「感謝の心」を忘れずに過ごしました。4 日間私の面倒をみてくれたホストファミリーに感謝、8 日間引率して下さった方々に感謝、そして今回オーストラリアに行かしてくれた両親へ感謝。

この 8 日間で、言葉の違いは大きな壁だけれど、決して越えられない壁ではないということ学びました。また、私は【恥ずかしい】という気持ちにこの 8 日間で勝つことができたと思います。私はまたオーストラリアに行きたいです。

最後に、私がお別れの時お母さんに送った言葉をオーストラリアのみなさんに送ります。

『 have really had a good time . Thank you very much , indeed .』

保護者の目から見た派遣事業

「コミュニケーションの原点」

古川 友治^{とも はる}

子どもたちを海外派遣するにあたり、個人的に希望するのは、文化を含めた環境の違いを体験し、まずは、それを楽しんで受け入れ、自分のフィールドでないところで、自分自身を見直せればと考えていました。

子どもたちがホームステイで最も苦労するのは言葉の壁でしょう。満足な会話ができない状況で、如何にコミュニケーションを図れるかを意識する・しないは別として、彼等なりに考えたはずです。

日本での生活は、周囲に対しての理解よりも、自分を理解して欲しいと考えがちですが、コミュニケーションを図るための最も強力なアイテムの言語が不十分な状況下では、まずは、「相手を理解する」から始め、少しでも会話の内容を感じ取れるようにとお互いが努力する。これがコミュニケーションの原点です。原点に立ち返るとともに、言葉の大切さも合わせて感じ取ってくれたらと思います。

帰国後すぐに、ホストファミリーとの土産話をたくさん聞きました。曖昧なところもあるものの「可能な限り理解しようと頑張ったな」と感じました。

日常生活、ややもすると見落としがちな相手を理解しようとする姿勢を、今後も意識的に持ってくれるかな？

まあ、親にとっては、何と言っても無事に帰ってこれたのが一番の土産でした。

海外派遣事業の事務局ならびにお世話をしていただいた方々には、心より感謝いたしております。本当にありがとうございました。



一生の宝物

藤 森 勇 作



生意気カンガルー

僕にとって海外派遣事業は忘れることのできない大切な思い出になりました。

それでは、僕がオーストラリアで体験したことをお話しします。

オーストラリア・・・、それは僕にとって「初めて」がいっぱいでした。初めて乗る飛行機、初めて見る空の上、初めて近くで見るキャビンアテンダント・・・。そして、初めての外国。

長い空の旅が終り、やっとオーストラリアに着きました。外は冬なのでとても寒く、真っ暗だったのであまりオーストラリアに来た実感が沸きませんでした。

次の日は、ファームステイに行きました。バスに乗ってよく周りを見ると、英語の看板、外国の人たち・・・。「オーストラリアにおるんや」やっと実感が沸いてきました。

ファームはどんだけデカイねん！と言ってしまいたくなるほど土地が広く、牛や羊がそ

こら中をウロウロしています。ひとつの檻にギュウッと押し込まれている日本の牛とは全然違いました。たくさんの自然の中でのんびり過ごしていると、「空って低いなあ」とか、日本にいると何も思わないことが気になり、何だか不思議な気分になりました。

ファームステイでの2日間もあっという間に終わってしまい、次が一番楽しみにしていたホームステイです。僕のホストファミリーは3人家族のとても面白い人たちで、一気に緊張もほぐれました。いろんなところへ連れて行ってくれました。びっくりしたのがボーリングに行った時のことでした。レーンを見たときびっくりしました。日本のボーリングのレーンよりはるかに短かったです。そして、僕はこれならストライク続出！と思っていたのですが、ボーリングのボールの大きさがかなり大きくて、とても片手では投げられるものじゃなかったです。なので僕は両手でやっていました。

言葉もだいぶ聞き取れるようになってきて、一緒に笑ったりできるとすごく嬉しかったです。

学校へ行く機会もあり、僕たちと同世代の人ともふれあえました。向こうの学校はとにかく自由で、個性が尊重されていました。授業も、自分で選べるので、興味のあることを伸ばせるので、とてもうらやましかったです。僕たちは、生徒の前で御神楽を踊りました。みんな一緒になって踊ってくれて、すごく嬉しかったです。

そして、とうとう帰る時になりました。ホストの方との別れは本当に寂しかったです。僕は、空港までの間、オーストラリアで過ごした日々を思い出していました。大きな大地に驚き、たくさんの見たことのない動物、自然とふれあうことのできたファームステイ。オーストラリアで普通の生活に混じり、たくさんのことを知り、たくさんの人と出会い、たくさんの言葉を覚えたホームステイ。日本の文化を紹介した学校訪問。僕たちの海外派遣は多くの人々の支えで成り立っているんだとしみじみ思いました。

日本へ帰ると僕の育った町が待っています。僕も、オーストラリアの人たちのように自分の意思をしっかりと伝えるようになりたいです。そして、僕が育ったこの町を大切にしたい、そう思いました。この1週間で、僕は少しだけ強くなれた気がします。本当にこの事業に参加できて良かったです。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させて」

藤 森 千 代 子

8月23日、中学生海外派遣事業のバスが稲美町役場の駐車場に到着しました。バスの中からは、ニコニコとした顔の子どもたちが降りてきました。気のせいか、ちょっと行きの時よりも大きくなったような・・・、とっていると、満面の笑顔で歩いて来た勇作。たった一週間の海外派遣だった。あっという間の一週間だった。でもやっぱり、何か違って見えました。

「お帰り、どうやった?」「お母さん、めっちゃ良かった。行ってよかった。また海外に行きたい!」「お昼はカツ丼が食べたい」えっ?

それから2時間、いや3時間話は途切れることなく・・・。

本当に行って良かったんだなと思いました。

日本と外国の食生活の違いや、ホームステイの家族同士のコミュニケーションの取り方、オーストラリアの星の話、私も聞いているうちに一度行ってみたいくなりました。

今回、この海外派遣に申込みをする時、遠い外国でもし何かあったら・・・と言う少しの迷いはありませんでしたが、息子の話を聞いていると、本当に良かった!と心から思います。今、もし迷っている方がいらしたら是非参加してください。

最後になりましたが、中学生海外派遣事業の皆様、本当にありがとうございました。



国境を越えた 心と心

本 岡 ^{あか} 明 ^ね 音



トムソン家にて

この8日間は、私にとってとにかく楽しかったです！

たくさんの方に見送られ役場を出発し、緊張しながらも、関空へ向かうバスの中はみんな大はしゃぎでした。飛行機に乗ってからも、ワクワク感はずばかりで、寝る気にもならず、ずっと窓の外を眺めていました。シンガポールで乗り換え、パースに着くと息が白くなるくらい肌寒く、ホテルでの朝はその寒さで目が覚めました。

楽しみにしていたファームステイでは、とてつもなく広い草原に、私の大好きな牛や羊があちこちにいて、感動でした！初めてエミューを見て、ふれて、語り合っ（笑）とても FRIENDRY になれたことが、嬉しかったです！！ファームで見た、満天の星空は、日本の倍以上の星が見え、忘れられないくらい綺麗でした。ハート型の星座を新たに発見したり、みんなで流れ星が流れるのを真剣に待ったり...こんな体験は初めてなので、本当に

感動の連続でした！次の日の朝は、5時半に目が覚めたので、一人で20分くらいファームの周りを RUNNING　　すごく涼しくて気持ち良かったです！

盲導犬の訓練士になりたい私は、オーストラリアの盲導犬について知りたくて、お別れの前、ローザさんに聞くと、偶然にもローザさんはボランティアの一員らしく、オーストラリアでも盲導犬が活躍しているという話が聞けたし、パンフレットもたくさん貰うことが出来ました。絶対にもう一度来ると約束したので、もっと英語で喋れるようになってから行こうと思います！

ホストファミリーのトムソン一家は、私に本当に親切にしてくれました。初めて会った時、ジェルーサが笑顔で接してくれたので、なぜかとても安心しました。学校訪問の時でも集合場所や時間にとっても正確で、私にとってすごく頼りになるお姉さんでした。末っ子のジョンが、紙に『Good night Akane!』と書いてくれていたのを寝る前にジェルーサが見せてくれた時は、日本に弟として連れて帰ろうかと思うくらい、『かわいい!』と思いました。話せる範囲で私の家族のことや稲美町のこと、日本語などを教えてあげたり、折り紙や水鉄砲・紙風船などをプレゼントし一緒に遊んだり...、とても楽しい5日間を過ごすことが出来ました！英語が分からない時はジェスチャーや雰囲気理解したり、言葉よりも大切な『心』での会話もすることができ、言葉の壁を越えることが出来たと思います。

“朝起きた時に部屋の外から英語が聞こえてくる”という不思議な感覚に慣れてきたと思ったらもうお別れで、最後の朝はうどんを作ってあげました。デイビット(父)やマシュー(兄)には仕事に行く前に挨拶をし、タイソン(犬)とは、ベッドの上でじゃれ合い(笑)、イローナ(母)とジョンは学校まで送ってくれたので、そこでお別れしました。ジェルーサは、私たちのバスが出発して見えなくなるまで見送ってくれて、最後の最後まで本当に優しい人だったなあ...と思いました。私をホームステイさせてくれて、本当にありがとう！

この海外派遣事業に稲美町の代表として参加して、国際交流にどれだけ貢献できたか分かりませんが、私の中でとてもいい経験になりました。今まで私には『行って良かった。やって良かった』という思い出があまりなかったけれど、この海外派遣は、心からそう言えます。お世話になった方々、本当にありがとうございました。

保護者の目から見た派遣事業

「親の思いと子の成長」

本 岡 周 子^{しゅう こ}

「満点の星空に流れ星がいっぱい！！」

目を輝かせながら話し始めた我が子を見て、それまでの心配が一瞬に吹き飛んだ気がしました。

ホームステイ1日目の夕方、ホストファミリーの勧めで国際電話をかけさせてもらった明音の声が、切る瞬間、少し寂しそうに聞こえたので、顔を見るまで心配で心配でたまりませんでした。役場からの定期連絡も、「みんな言葉に苦労している」とのことでしたので、“やっぱり中学生が1人でホームステイするのは無理だったのではないか！？”、“海外派遣事業に中学生では荷が重過ぎるのではないか！？”など、頭の中を駆け巡る日々を過ごしました。

しかし、ファームでは大好きな動物たちに囲まれて過ごすことができ、盲導犬のパピーウォーカーの話も聞けたし、夜は南十字星や天の川、銀河や人工衛星まではっきり見え、その数の多さに感激したそうです。

ホストファミリーは明るく親切で、とても楽しく過ごさせてもらったようです。決してお金持ちのお宅ではなかったようですが、温かな家族だったと喜んでいました。市内から離れていたのも、電車にも乗ったそうで、オーストラリアの生活を体験できて良かったと思います。

言葉も、「知っている単語とジェスチャーや雰囲気ではほとんど通じた」と胸を張って話す娘が、ひとまわり大きく見えた気がしました。

帰国後、ホストファミリーにお礼のメールを送ったり、“必ずもう一度オーストラリアへ行く”と言い出した娘を見て、これが国際交流の始まりなのだと嬉しく思いました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった稲美町の方々に感謝するとともに、これからも1人でも多くの子どもたちが世界に目を向けることができますよう希望します。

本当にありがとうございました。



オーストラリアの8日間

井上 ともひろ 智博



思い出に残るファームステイ

いよいよこの日がやって来ました。これまで事前研修を行ってきてこの日に備えました。オーストラリアについて、出し物について、海外派遣についてなど、いろいろなことが事前研修を通してわかりました。この日が来るまで早くオーストラリアに行きたいなあとか、不安やなぁなど、いろいろな気持ちが入り混じっていました。でも、事前研修を行っていくうちにどんどん不安もなくなってきて、事前研修というものは凄く大事なことだとわかりました。

出発日、スーツケースと手荷物を持って初の海外です。役場の方々、家族の人たち、いろいろな方が見送ってくださいました。空港に着くと手続きが大変でした。空港では時間があったので友だちといろいろしゃべっていました。初めての飛行機だったので少し緊張していました。機内では外の景色がとてもきれいかったです。機内食は思っていたよりおいしくて良かったです。でも夜の方は少しおいしくなかったです。タイ米が夕ご飯にできて

たのです。少しくさくて、とても口に合わなくて残しました（シンガポールから乗った時の夕ご飯）。シンガポールの空港に寄って、オーストラリアに着きました。とても寒くてびっくりしました。この日はホテルに泊まりました。

次の日は表敬訪問に行きました。終わってから楽しみにしていたファームステイです。2時間ぐらいバスに乗ってファームに行きました。行く途中、たくさんの動物、草原には驚かされました。このファームでは記念の木を彫りました。少し大変でした。その後、羊の毛剃りも見ました。初めて見ましたが、とてもかわいそうになって少し涙がこぼれそうでした。この日の夜はキャンプファイヤーをやりました。歌を歌ったりして楽しみました。日本ではあまり見れない星をたくさん見ました。例えば、流れ星や天の川を見ました。空一面に星が広がっていてとても感動しました。

次の日、午前中の乳しぼりや馬に乗り、楽しみました。ファームではあまり体験できない貴重な体験ができました。午後からスワン市の市長さんに会いに行き、そこでホームステイの家族のみなさんと会いました。思っていた以上におもしろそうな家族の人たちで、とても楽しみでした。車で家に向かいました。家は結構大きくてびっくりしました。最初、全く英語がわからなく、とりあえず「YES」と言っていました。家の夕ご飯にケンタッキーが出てきたので、かなりびっくりしました。日本とは全然違うなと感じました。この日ぐらいから日本食が恋しくなりました。

次の日、朝起きたら日本ではご飯とかちゃんと食べるのに、この家族はパンだけ焼いて食べるだけだったので、これまたびっくりしました。この日は、ボーリングに連れて行ってくれました。あまりいい記録が出ませんでした。この日の夕ご飯は何かと思っていたらやはりお肉でした。とても量が多く気分が悪くなりました。また、この家にはみそ汁とワサビがあって、とてもびっくりしました。日本食は人気があるのかなと思いました。

次の日は動物園に行きました。日本では見られない物をいろいろ見ました。帰ってきていつもだったら6時ごろには夕ご飯を食べるのに、全然作らなかったので焦りました。でも、7時ぐらいにやっと作ってくれて安心しました。この日もお肉で、もう嫌になってきました。一日目より英語がスムーズに話せるようになり、楽しくできて良かったです。わからなかったら単語を並べるなどして頑張りました。

別れの日が来ました。僕は自分なりに頑張って話せたと思うので、家族の人たちも喜んでくれたと思います。別れの時はとにかく寂しかったです。でも、こらえて別れの挨拶をしました。

このオーストラリアの海外派遣では、最初不安だった英語も意外としゃべれて自分に自信が付きました。もう、このような体験を出来ることがないと思います。日本にない文化、自然、いろいろな体験から学ばせてもらいました。とても自分にプラスになり、今後の学校生活など、いろいろな所で役立てたいと思っています。このような体験ができ、家族のみなさん、企画してくださったみなさんに深く感謝しています。また、このような海外派遣があればぜひ参加してみたいです。その時には、一步成長した姿で参加してみたいです。

保護者の目から見た派遣事業

「海外派遣事業に参加させてみて思うこと」

井 上 ^ま真 ^こ子

このたびの海外派遣事業では、多くの方々にお世話になり、親子共々大変感謝しております。

初めての外国、それも1人でホームステイするということで、日本語が全く通じない中、片言の英語で果たしてやっていけるのだろうか？子どもより親の方が不安でいっぱいでした。

毎日、スケジュール表を見ながら、3回の役場の方からの連絡があるたびに元気でやっているからと聞き、ホッとしていました。

8日間を通して、オーストラリアの広大な自然と、そこでは日本との生活習慣や食生活の違いを理解しながら、困った時にどうしたらいいのか自分一人で考えて、なんとか毎日楽しく過ごすことができたようです。

中学生である今だから感じたことはたくさんあったことでしょう。この経験を生かして、これからもっと大きく成長して行ってほしいと思います。

今回、海外派遣という素晴らしい機会を与えてくださり、事前研修からずっとサポートして下さった皆様、本当にありがとうございました。



思い出の 8 日間

山 本 大 貴
ひろ たか



ホストファミリーと一緒に

このオーストラリアでの研修は、僕にとって一生忘れないであろう、とても良い思い出になりました。

行きの飛行機の中では、嬉しさいっぱいの中にも、始めていく海外で本当に自分の英語力についていけるのだろうか、海外の人とも話が合うのだろうか、とても不安でしたが、今となってみればそれも良い思い出です。

8月16日、その日はすぐにやってきました。どんな話をするかなど考える暇もなく、気が付けば自分はオーストラリアの地に立っていました。「ここがオーストラリアかぁ」と思っても、眠たかったからかさほど日本との違いは見当たりませんでした。

しかし、朝起きるとどこを見ても英語しか見えず、とても戸惑いました。そして、あっという間にファーガソンファームに着きました。ファームの中をトラクターでまわりましたが、とても広かったです。その後、「INAMI」の看板を作りました。「N」を彫るのを少し失敗してしまいましたが、なかなかうまく出来ました。夜はキャンプファイヤーを

しました。星が日本とは比べ物にならないくらい綺麗でした。天の川がすごく綺麗に見えました。流れ星もいくつか見ました。

そして、ついにホームステイの日がやってきました。昨日までは、オーストラリアにいるといっても周りには日本人ばかりで、英語をしゃべるのもたまにだけでした。でも、ここからは日本語とも別れ、英語ばかりの中に一人で暮らす。そう考えると不安で不安で仕方がありませんでした。

そんなことを考えているうちに、ホームステイが始まりました。初日は、やはり緊張してなかなか自分から話すことが出来ませんでした。しかし、そのことを気付いてくれたのかピリヤードやトランプをしながら、僕にいろいろ質問してくれました。1日目からとても優しくしてくれて、話しやすかったです。

ホームステイ2日目は観光と買い物に連れて行ってもらいました。まずはお土産屋さん連れて行ってもらいました。とても安いお店で、いろいろなお土産を買いました。そこで、黒いチューイングキャンディーのようなお菓子をもらいました。みんな「おいしいおいしい」と言って食べていたので、おいしそうに見えましたが、食べてみると少し口に合わなくて、味の違い(?)を感じました。

その後、キングスパークに連れて行ってもらいました。パースの街を上から見ると、とてもいい眺めでした。キングスパークでは、たくさんの花や鳥たちを見ましたが、カンガルーポも見る事が出来ました。公園内を探索していると、「底なし沼」みたいな感じが書いてあるところがあり、すごく驚きました。

3日目はビーチに連れて行ってもらいました。すごく綺麗な海でした。砂浜を歩いて、くらげの死骸や貝殻を見ました。冬なのに海で泳いでいる人がいて驚きました。

この日の夜にたくさんのお土産をもらったので、僕も最終日に渡すはずだったお土産を渡しました。

次の日にガバナースターリン高校を見に行きました。日本とは全く違う感じで驚きました。その日の夜に歓迎会がありました。他のホストファミリーの人とも出会えて良かったです。

そしていよいよ別れの日がやってきました。もう日本に帰るんだと思うと、とても寂しい気持ちになりました。短い間だったけど、わからないことばかりの中で常に優しく接してくれたホストファミリーの方々にはとても感謝しています。

僕は、この1週間で日本にいただけでは体験できない多くのことを学ぶことが出来ました。英語ばかりの環境の中で過ごすことによって、学校の英語の授業では学べないものを学ぶことが出来たし、話すことが出来たという自信もつきました。文化の違いも学ぶことが出来ました。このような体験が出来たのも、家族や稲美町国際交流協会の方々、ホストファミリーの方々を始めとし、協力してくださった全ての方々のお陰です。ありがとうございました。

僕は、これからも日本と海外の交流の発展に努めていきたいと思います。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させて」

山本 謙 司^{けん じ}

このたび、長男が中学生海外派遣事業に参加させていただきました。初めての海外への渡航であり、パスポートの申請やスーツケースを借りたり、ホストファミリーへの手土産は何にしようかなど、間際まで準備に追われた。

単語を並べる程度の英語力、オーストラリアという国についての知識もほとんどない中で、「大丈夫かな？」という親の心配をよそに、本人はいたって気楽に出発していった。

1週間ほどではあるが、ファームでの体験、現地の学生たちとの交流、ホストファミリーとの生活……。 「海外旅行」と違って、教育の一環としての活動でもあり、自分勝手な行動や甘えは許されない。ホームステイでは、初対面の、しかも外国人（正確には息子たちが外国人ですね）のお宅に一人で行くことになり、多少の不安もあったのではないかと思う。

帰国の日、仕事から帰って「どうやった？」と聞いた。予想はしていたが、「メチャ楽しかった！」と言う。機内のこと、ファームのこと、学校のこと、ホストファミリーのことなど、1週間分を凝縮して話をしてくれた。

今回、この事業に参加して何が身についたのだろうか？ 姉妹都市との交流で、稲美町の代表で参加しているという責任感。他人の家で生活させていただくにあたっての礼儀やマナーの習得。そして、派遣事業に携っている役場や教育関係の方々、現地で受け入れをしてくださった市や学校やファーム、そして、ホストファミリーの方々への感謝の気持ち。たった10人のために、非常にたくさんの方々の準備や協力があったから実現したということを理解して、「感謝の気持ち」を忘れず、オーストラリアで体験してきたことをこれからの生活に生かしてほしいと思います。

最後になりましたが、役場・教育関係の方々には大変お世話になりました。稲美町に住んでいなければ出来なかったかもしれない貴重な経験をさせていただいたと思います。今後も、この事業は継続していただきたいです。ありがとうございました。



温かい環境の中で

畠 奈 々 子



仲間と作った愛のカタチ

私はオーストラリアに行ってよかったと思います。パスでたくさんのいろいろな貴重な体験をして、自分の夢に少しずつ近づけました。

最初は飛行機に5時間乗って、乗り換えして5時間。しんどかったです。いつもは飛行機に乗ると耳が痛くなるはずなのに、痛くなくて良かったです。飴やガムのお陰で無事到着できてホッとしました。

一番印象に残っているのはファームステイです。広々としたあふれた緑の大地、自然の命を眺めて、とても綺麗でした。ここでぬくぬくと温かい自然に囲まれて働きながら、リラックスしてみたいと思いました。また、自然の中にいる動物たちもきらきらと輝いた目をしていました。ここにいる全ての動物たちがとても大好きになりました。それから、木のブランコや手作りのトランポリン、馬車などにも乗って気持ち良く、とても楽しかったです。食べ物も違った味や不思議な味でしたが、とても美味しかったです。この味はこの自然だけしか作れない味だと思いました。夜空には初めて見た天の川が最高に綺麗で、み

んなとずっと眺めていました。星もたくさんあって、日本の夜空よりも何倍も美しかったです。その上、流れ星も何回か見れて感動しました。また見に行きたい気持ちでいっぱいです。ファームステイでお世話になったおじさんおばさんも優しく、笑顔がさわやかな方々でとても元気いっぱいに活動する姿を尊敬しました。

ホームステイでは、私はすごく不安だったから緊張しすぎたけど、お世話になったお母さんが優しく迎えてくれて、何とか英語も伝わってくるようになり慣れてきました。慣れるほど、会話も増えて面白かったです。家族みんなの個性もわかるようになりました。子ども3人ともがマクドナルドで働いていて、夜中4時まで働く時もあったので驚きました。初めてご飯を食べる時、どんな料理かと不安に思っていました、とても美味しかったです。ただ、量が多すぎて食べきれませんでした。でも、ご飯にはいつも炭酸のジュースを飲んでいてびっくりしました。家族で1日に1リットル飲みました。私は飲みすぎてちょっと気分が悪くなりました。よく眠って朝起きたらおはようと私から言おうと思ったのに、一気に「おはよう」と言われて少しびっくりしました。朝ご飯は食べないようだったので、私は一人でシリアルを食べました。

ホストファミリーは、いろいろな所に連れて行ってくれました。買い物に行ったり公園や山、海などオーストラリアと日本に違うところがたくさんあるのを知りました。オーストラリアの家は1階建てで面積が広くて庭もみんなあり、とても綺麗でした。信号も縦で一回転するところもありました。

ホストファミリーと過ごした後学校に行く時、久しぶりにみんなに会えるのが楽しみで待ちきれないくらいでした。学校ではたくさんの生徒がいて、綺麗な校舎に施設もいっぱいあって楽しそうでした。学校を見回した後、動物園に行きました。オーストラリアといえばカンガルーとコアラだと思って、実際に近くで見ると、思ったより凄い顔でした。どっちも手でさわれることができ嬉しかったです。動物園の中で、私はウォンバットが一番気に入りました。とても重くてかわいらしい顔をしていました。

夜、ホストファミリーと一緒にそろってスワン市の夕食会に行きました。スワン市の副市長さんの英語が速くて何を話しているのかわからなくて困ったけど、兵庫文化交流センターの小川さんが日本語に訳してくれて、助かりました。私も小川さんみたいに英語を日本語にすぐに頭の中で考えて口に出せるようになりたいです。舞台上で御神楽を踊るのに、私は心臓がバクバクするくらい緊張しました。でも、リラックスして踊りきれて良かったです。カントリーロードを歌っている時、私は自分たちの声がより美しいメロディーに聞こえ、この声が聞いている人たちの心まで届くように感謝の気持ちを込め、オーストラリアの思い出を胸に刻みながら歌いました。終わった後、聞いている人たちが笑顔で拍手してくれて嬉しかったです。

お別れの時、とても寂しい気持ちになりました。学校まで送ってくれたお母さんに抱きしめられた時は少しびっくりしましたが、オーストラリアならではの習慣と実感しました。帰りの飛行機に乗ってやっと日本に着きました。

バスに乗って役場に着いた時、親に会えて体験したいいっぱいの出来事を話しました。私は日本に帰りたくないくらいオーストラリアが大好きになりました。耳の不自由な私だったのに無事に何事もなくよかったです。日本旅行のお姉さんや翻訳家のお姉さん2人と

仲良くなれて、優しくしてくれたことも嬉しかったです。この旅を機に、英語や自分自身に自信が付きまして。どんなことにもチャレンジして、出来ないものを出来るものに、自分の力で一人前になれるよう頑張ります。そして、私はファームステイで見たエメラルドの輝いた自然のようなところで、動物たちとともに将来働いてみようかなあと思いました。そのためには今、英語やその夢に必要なものを身につけて頑張ります。一緒に行った方、たくさんの協力や応援して下さった方に、心から感謝の気持ちを込めて、本当にお世話になり、私をオーストラリアに連れて行って来てくれてありがとうございました。

保護者の目から見た派遣事業

「中学生海外派遣事業に参加させての感想」

畠 めぐみ
恵

最初は、英語が十分勉強出来ていないのに会話ができるのか、難聴である我が子が人に迷惑をかけずにホームステイが出来るのか、稲美町の代表としてうまくやっていけるのか不安ばかりでした。しかし、事前研修を重ねていくうち、頑張っ取組み姿勢を見て、安心していきました。何事にもチャレンジ精神が大事で、失敗を恐れては前には進めないと思ひながら、頑張っ欲しいと期待しました。

ホームステイの家の人には大変感謝しています。また、役場の人からも何度も電話して下さり、元気な様子ごわかり安心できました。

そして、オーストラリアから帰って来た時は平然としていましたが、「楽しかった」という言葉を聞いて、参加させて良かったと思ひました。写真に写っている表情がとても楽しそうでした。初めは何を言っているかわからず、苦労したようですが、電子辞書を使ったりと、自分なりに工夫して努力したようです。短い期間だったので、思っよりホームステイの同級生の子とは親しくなっていないのが残念ですが、良い経験になったと思ひます。何より、一緒に行った仲間同士、楽しく過ごせたのが良かったです。日本では体験できないことをより多く学び、素晴らしい思い出を作ってきたことでしょう。これから貴重な体験を自信につなげていってけると思ひます。

最後になりましたが、難聴であるにもかかわらず、我が子をこの事業に参加させていただきましてありがとうございました。そして、引率して下さった方々、お世話して下さった皆様に、心からお礼申し上げます。

今だから言えるとおきのエピソード

- ・ ホームステイ 1 日目でいきなりタイ米（泣）
- ・ シャワーが全然温かくななくてとても寒かった。
- ・ 車に乗ると急に睡魔におそわれて、乗るたび寝ちゃった！
- ・ シャワーの水を出してると、水がどんどん減って行って、初めはおばけの仕業かと思った。
- ・ 私と 1 歳違いの子が学校に行くのに半そで・半ズボン。私なんか 3 枚着てても寒いのに。
- ・ 家でご飯を食べたのは 2 回だけ。
- ・ オーストラリアの炭酸飲料はのどにくる。
- ・ 食事中にお兄ちゃんがいきなり大声で怒り出して、私のことかと思ってビクビクした。
- ・ 家にホームシアターがあって本当に驚いた。
- ・ ホテル、ファーム、で 1 つずつ忘れ物をしてきてしまった・・・。忘れ物には気をつけなければ。
- ・ ファーストフードが多かった。ケンタッキーはもう勘弁！
- ・ 動物園でカンガルーにパンチされた（笑）
- ・ ポニーに指を噛まれた。
- ・ 土産をいくつか渡したけど 3 ~ 4 個しか気に入ってくれなかった。
- ・ テレビの音が大きい。寝てる時にドアを閉めているにもかかわらずバッチリ聞こえてきた。
- ・ エレベータのボタンが開くマークなのに「close」と書いてあった。
- ・ 車を運転しているのに両手放しでもの凄いスピードだけど話しかけてくれるおじさん。話してくれるのは嬉しいけど・・・運転忘れてません？
- ・ 朝ご飯にパン一枚をお願いしたら、三枚のせて渡された。それぐらい食べるということでしょうか？
- ・ ラジオの大音量に負けない大きさの声で家族全員が大合唱。素晴らしい！！
- ・ パーティーの集合時間を伝えて「ok」と言ってくれたのに会場に着いた時には 20 分の遅刻。でも余裕のホストファミリー。もうどうでもいいや！！（笑）
- ・ 食事の時や普段の飲み物は、すべてコーラなどの炭酸飲料。さすがにあきるもんですね。
- ・ 行きの飛行機の中で、「今、みんなの上を飛んでるんだなあ...」と考えると無性に叫びたくなって、周りに聞こえないように『やっほ~』と一人で言っていました（笑）
- ・ ファームステイの時、男子が窓をバンバン叩くので、怖くてみんなダブルベッドに 2 人ずつ寝ました。私はその近くのフカフカのソファで 1 人寝たけれど、意外とフィット（笑）してたし、暖炉が近かったので暖かかったです
- ・ ガバナースターリン高校に熱血城島ファンがいた。
- ・ ファームステイの時、朝 5 時半に男子と走る約束をしていたのに、部屋へ行ってみると、みんな爆睡... (笑)。なので 1 人で走りました・・・。

- 日本の水と違うのか、顔を洗うと突っ張って、バリバリになってしまった…。だからお店で、テスターのクリームなどを塗りまくったら、めちゃ匂いがきつかった！！その上、にきびがたくさんできてしまった！！
- ホームステイを終えて、久しぶりにみんなと会うと、みんなの日本語がおかしくなっていた！！（笑）
- 外国の食事に慣れたはずだったが、関空からの帰りのバスの中で食べた、おにぎりとお茶がとてもおいしく感じました。
- ホストファミリーの友だちのエニーという人は、パナソニックがナンバー 1 とずっと言っていたが、持っていたカメラは富士フィルムだった。
- ご飯を食べる時、机がなく膝の上で食べた。
- ホストファミリーのお父さんを 1 回も見えていない・・・。
- 飛行機で初めて乗り物酔いした。
- ホストファミリーの家で寝ていたら、朝になると猫が私の頭のへんをウロウロして毎朝猫に「ニャー」と言って起こされた。
- 制服のリボンを忘れてしまった。女には迷惑をかけてしまいました。
- 機内食でカレーをたのんだら日本みたいなカレーが出てくると思っていたが、ご飯がタイ米で具が入ったものが出てきた。食べたらくさくて口に合わなかった。もう 2 度と食べたくないと思った。
- 同い年の女の子の方が、僕より食べるのが早かった・・・。
- コーラの Small を頼んだのに、Large くらいのが出てきた。
- ホストの家族の人たちは僕と一緒にくしゃみをする時鼻をつまむ癖があり、とても気が合った（笑）
- ケータイがものすごく小さかった。見えないんじゃないんすか？？
- ホストファミリーの家に着いた時、家にいた女の子がお姉ちゃんだと思ってお土産を渡したら、実は友だちだった。
- 家族みんなフットボールのファンでグッズがあちこちに多かった。
- 冬はずなのにキャミソールやタンクトップ、半そで半ズボンを着ている人を良く見かける。
- にんじんを、おやつのステックみたいに TV を見ながらポリポリ食べていた。うさぎみたい・・・。
- 弟の年齢を聞かれて 12 歳と言おうとしたのに 20 歳と言ってしまって笑われた。しかも本当は 13 歳・・・。
- 羊の毛刈りの羊は、おじさんにやられて凄くかわいそうやった。
- CA の人は化粧がかなり凄かった。
- Tim Tam のおいしい食べ方を教えてもらった。
- 車やバスに乗るとつい寝てしまう・・・。